

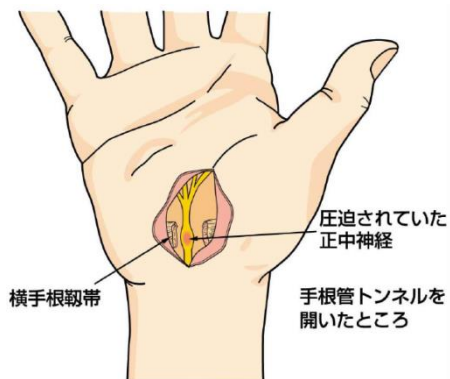
手外科・マイクロサージャリー

担当医：菅沼 省吾、島貴 景都

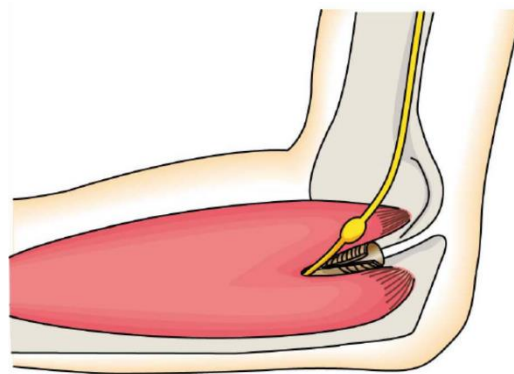
「手外科」とは、肘のやや上から指先の病気やけがを診療する整形外科の一分野です。海外では、整形外科とは別に手外科（Hand Surgery）が独立した診療科として存在する国や地域もあります。というのも、この部位には骨、靭帯、腱、神経、血管といった重要な組織が凝縮されており、非常に高度な診療技術が必要となるからです。当院は、北陸地方では数少ない日本手外科学会認定基幹研修施設に指定されています。専門医2名体制で診療を行っており、年間400件以上の手術を行っています。なお、当科では**手の先天異常の診療は行っていません**。あらかじめご了承ください。

1. 絞扼性神経障害

手のしびれを引き起こす代表的な病気として、手根管症候群や肘部管症候群などの絞扼性神経障害が挙げられます。親指から薬指がしびれる場合は前者、薬指と小指がしびれる場合は後者の可能性があります。いずれの病気も強いしびれや筋力低下を自覚する場合は手術療法を検討します。特に肘部管症候群は進行性の病態であり、軽い感覚障害のみの場合を除き、原則として手術療法が必要とされています。



手根管症候群に対する手根管開放術



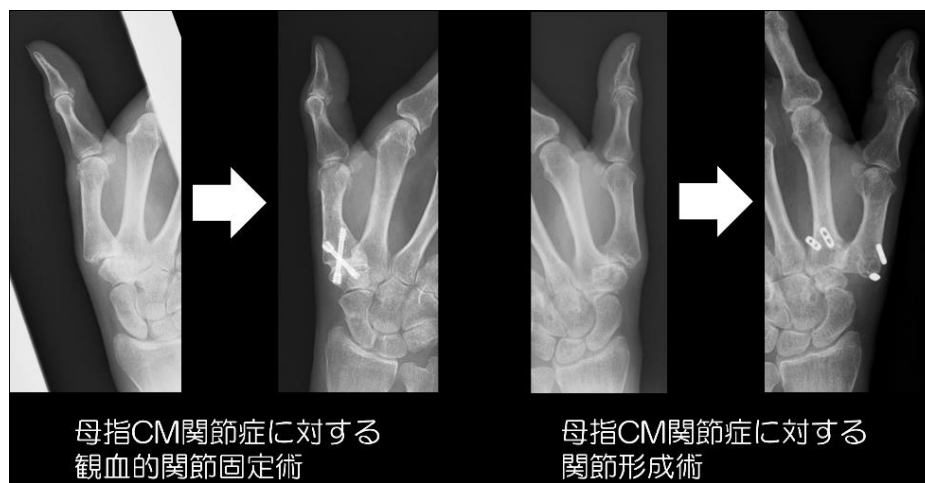
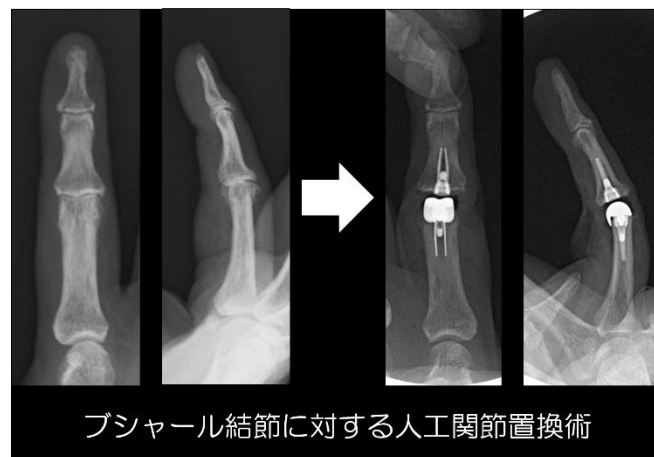
肘部管症候群に対する皮下前方移動術

（日本手外科学会「手外科シリーズ」より転載）

2. 変形性関節症

変形性関節症は、何らかの原因で関節軟骨が摩耗し、最終的に関節の痛みや変形に至る病気です。指のどの関節にも起こる可能性がありますが、指の第1関節に起こる場合を「ヘバーデン結節」、第2関節に起こる場合を「ブシャール結節」、親指のつけ根にあるCM関節に起こる場合を「母指CM関節症」と呼びます。特に親指は他の指と共同して「つまみ」の動作を行う大切な指ですので、母指CM関節症は日

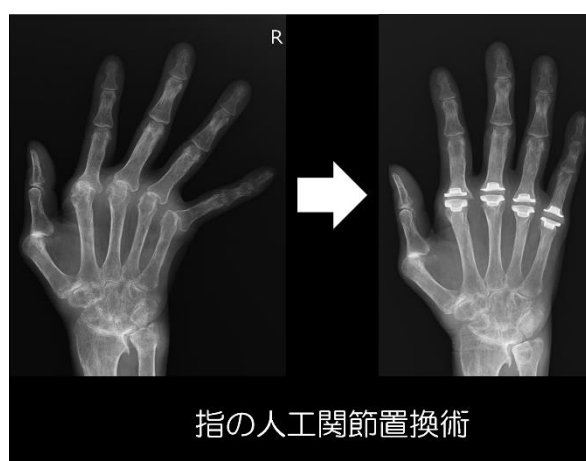
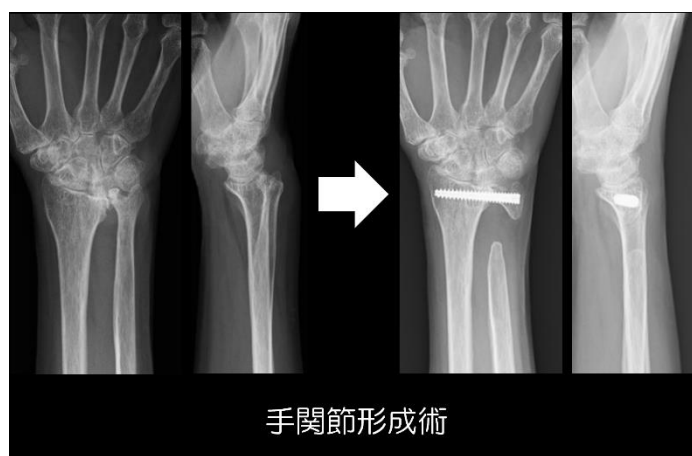
常生活に大きな支障をきたします。いずれも軽症であれば投薬や注射、装具による保存療法が可能ですが、強い痛みや変形がある場合は手術療法を検討します。



3. 関節リウマチ

関節リウマチが進行すると手指や手首、肘の痛みや変形を生じ、上肢の機能が障害

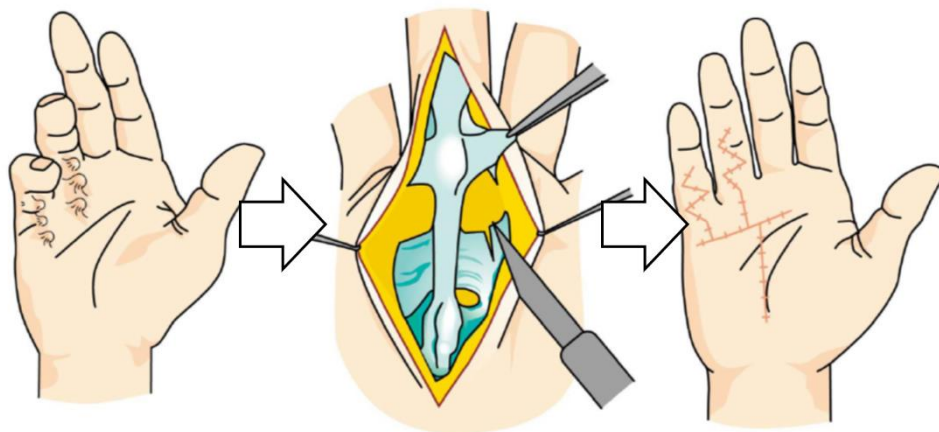
されます。当科では、痛みや変形および機能障害の種類や程度に応じて、様々な機能再建のための手術を行っています。



4. デュピュイトラン拘縮

デュピュイトラン拘縮は、手のひらから指にかけてしこりを形成し、皮膚がひきつれて指が徐々に伸ばしにくくなる病気です。原因は不明ですが、北欧人に多く、別

名「バイキング病」と呼ばれています。日常生活に支障があれば、現在は手術療法が唯一の治療手段となっています。



(日本手外科学会「手外科シリーズ」より転載)

5. 肘関節疾患

「変形性肘関節症」や「上腕骨内・外側上顆炎」といった肘関節の病気も手外科医の守備範囲になります。当科では、肘関節疾患に対しても痛みや変形および機能障害の種類や程度に応じて、様々な手術を行っています。なお当科では、**野球肘の診療はスポーツ整形外科医が担当**しています。

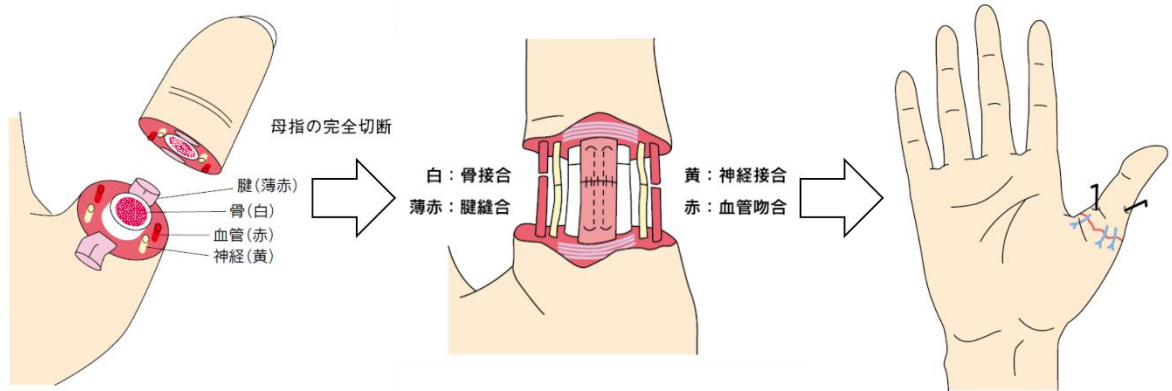


変形性肘関節症に対する観血的関節受動術

6. マイクロサージャリー

手外科医の技術が最も発揮されるのは、主にけがにより「マイクロサージャリー」が必要とされる場面です。マイクロサージャリーは、「微小血管外科」と呼ばれることもあり、神経や血管の修復はもちろんのこと、軟部組織欠損に対する組織移植に際してもその技術が駆使されます。この際、手術用顕微鏡を用いて直径 0.5～数 mm

の血管を縫い合わせる必要がありますが、この技術の習得には長年の修練が必要です。



切断指に対する再接着術

(日本手外科学会「手外科シリーズ」より転載)